第22講 「四面楚歌」・漢文読解法・実践演習(1)

一 文章を読んで、次の問に答えなさい（なお設問の都合で、送り仮名を省いたところがある）。

> 第21講の『鴻門之会』から四年後、項王と沛公の立場は逆転しており、項王は沛公の軍に追い詰められていた。

項王軍壁垓下。兵少食尽。漢軍及諸侯兵、囲之数重。夜聞漢軍四面皆楚歌、項王乃大驚曰、「漢皆已得楚乎。①是何楚人之多也。」項王則夜起飲帳中。有美人、名虞。常幸従。駿馬、名騅。常騎之。於是項王乃悲歌忼慨、自為詩曰、

力抜山兮気蓋世
時不利兮騅不逝
騅不逝兮可奈何
虞兮虞兮②奈若何

歌数闋、美人和之。項王泣数行下。a左右皆泣、莫能仰視。

（『史記』）

注　壁…砦を作って立てこもる。　垓下…地名。　漢軍…沛公の率いる軍。　楚…項王の出身地。
帳中…ここでは「本陣」の意味。　美人…女官の位の一つ。　幸…寵愛する。　駿馬…名馬。
忼慨…激しく心をたかぶらせる。　時…時勢。　逝…進む。　数闋…数回。　和…合わせて歌う。

問一　傍線部ａの意味を答えよ。

問二　傍線部①を現代語訳せよ。

問三　傍線部②をすべて歴史的仮名遣いで書き下し、現代語訳せよ。

★「四面楚歌」＝

★「抜山蓋世（ばつざんがいせい）」＝

二　漢文読解法

【手順】

①　設問チェック
　＊句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊絞れる選択肢は絞っておく
　＊その他は何をきかれているかを確認
②　注マーク確認（センター試験は不要）
③　前書きの有無確認↓あれば必ずきちんと読むこと
④　出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉

・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〈例題一〉 次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア　過度　　イ　過酷　　ウ　過失　　エ　過剰　　オ　超過

・二字熟語にして意味を類推する

〈例題二〉 次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として、最も適当なものを選べ。

好ミテ㆓行幸ヲ㆒不ㇾ息ルハ、人ノ所ナリ㆑不ㇾ堪（たへ）ル。

ア　棲息　　イ　利息　　ウ　嘆息　　エ　終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認→送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句**・**対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す

⬇傍線部を本文で確認＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の**〈解釈・部分説明〉**も同様）。

・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む

・指示語があれば指示内容を明確にする

・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

三　詩は、宋代の詩人蘇軾（そしょく）が、ある年の忘年会で「別歳（べっさい）（年と別れる）」と題して作った五言古詩である。これを読んで、次の問い（**問一〜六**）に答えよ。詩は十六句から成るが、最後の四句は口語訳してある。設問の都合で、⑪句は送り仮名を、⑫句は返り点と送り仮名を省いてある。

①　故（注1）人適（ゆ）ク二千里ニ一

②　臨（のぞ）ンデレ別レニ尚ホ遅（ち）（注2）遅（ち）タリ

③　人ノ行クハ猶ホ可シレ復（かへ）ル

④　歳ノ行クハ那（なん）ゾ可ケンレ追フ

⑤　問フレ歳ニ安（いづ）クニ所ゾトレ之（ゆ）ク

⑥　遠ク在リ二天（注3）ノ一涯ニ一

⑦　已（すで）ニ逐（お）ヒ二東流ノ水ヲ一

⑧　赴（おもむ）キテレ海ニ帰ルニ無シレ時

⑨　東隣ニ酒初メテ熟シ

⑩ 西舎(注4)ニ彘(ぶた)モ亦タ肥ユ

⑪ 且為㆓一日歓㆒

⑫ 慰此窮(注5)年悲

⑬ 旧(ふる)い年との別れなど、そう嘆くにはあたるまい、

⑭ やがては新しい年とも別れることになるのだから。

⑮ 旧い年よ、振り返らずにどんどんお行き、

⑯ 私の老いと衰えを、お前にお返ししよう。

(注)
1 故人——古くからの友人、知人。
2 遅遅——ぐずぐずするさま。
3 天一涯——天の果て。
4 舎——小屋。
5 窮年——年末。

問一　この詩には、③句と④句のほか、⑫句までにもう一組の対句がある。それはどの句とどの句か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　①句と②句。
②　⑤句と⑥句。
③　⑥句と⑦句。
④　⑨句と⑩句。
⑤　⑦句と⑪句。

問二　④句「歳（ノ）行（クハ）那（なんゾ）可（ケン）㆑追（フ）」とはどういう意味か。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　年が去ってゆくのを、誰（だれ）かに追いかけさせるべきだ。
②　年が去ってしまっても、なんとか追いかけるべきだ。
③　年が去ってしまうのを、どうして追いかけてよいものか。
④　年が去ってゆくのを、どうして追いかけることができよう。
⑤　年が去ってしまったら、なんとかして追いかけなければならない。

問三　⑤句「問（フ）㆑歳（ニ）安（いづクニ）所（ゾト）㆑之（ゆク）」は、作者が「歳」に対して「どこへ向かうのか」と問うている。その答えとなる内容が含まれているのはどの句までか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　⑥句。
②　⑥⑦句。
③　⑥⑦⑧句。
④　⑥⑦⑧⑨句。
⑤　⑥⑦⑧⑨⑩句。

問四　⑪句「且為二一日歓一」を、返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

①　且(しばら)く一日の歓を為(な)し、
②　一日の歓を且(しばら)く為し、
③　且(まさ)に一日の歓を為すべく、
④　且(か)つは為さん、一日の歓を、
⑤　且(まさ)に一日の歓を為さんとし、

問五　⑫句「慰此窮年悲」は、「此の窮年の悲しみを慰めん（この暮れゆく年の悲しみをいやそう）。」と読む。どのように返り点をつけるのがよいか。最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

①　慰レ此　窮　年レ悲
②　慰二此　窮　年一レ悲
③　慰下此二窮　年一悲上
④　慰レ此二窮　年　悲一
⑤　慰二此　窮　年　悲一

問六　この詩の内容を述べた文として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 忘年会の席でつくられたこの詩には、出席している長寿者への祝福と来年の豊作への祈りが込められている。

② 作者は、人間の旅立ちと対比しつつ「歳」を擬人化して送り出し、新しい年をおおらかに迎えようとしている。

③ 作者は、大晦日(おおみそか)に集まった友人や親類としみじみこの一年を懐かしみ、擬人化した「歳」を引き留めようとしている。

④ 作者は、忘年会の席で酔いにまかせてこの詩を作り、擬人化した「歳」に感謝しつつも早目に追い出そうとしている。

⑤ 年末に長旅から帰った友人の無事を祝って作られたこの詩は、「歳」をも友人として扱い、明るい気分に満ちている。

第22講　確認問題

① 「自分の周りがすべて敵」という意味の故事成語を、次の中から一つ選べ。

ア　井の中の蛙大海を知らず
イ　疑心暗鬼
ウ　呉越同舟
エ　抜山蓋世
オ　四面楚歌

② 「可ケンレ謂いフレ仁ト乎や。」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　なんとかして仁と言うべきだ。
イ　なんとかして仁と言わなければいけない。
ウ　どうして仁と言うのがよいのか。
エ　どうして仁と言うことができようか。

〈Memo〉

第22講　解答

一

問一　側近（近臣）

問二　これはなんと楚の国の人（＝兵）が多いことよ。

問三　**〈書き下し文〉**　なんぢをいかんせん（と）。

〈訳〉　お前をどうしようか、いや、どうにもできない。

★**「四面楚歌」**＝周りがすべて敵。孤立無援の状態であること。

★**「抜山蓋世」**＝気力が極めて充実していること。

二

〈例題一〉　ウ　　**〈例題二〉**　エ

三

問一　④　　**問二**　④　　**問三**　③

問四　①　　**問五**　⑤　　**問六**　②

〈現代語訳〉

一

項王の軍は垓下に砦を作って立てこもった。兵士も少なく食糧も尽きた。漢軍〔＝沛公の率いる軍〕及び諸侯の兵が、これを何重にも囲んだ。夜、漢軍が四方で皆、楚の歌を歌っているのを（項王が）聞き、項王はそこでとても驚いて言うには、「漢は皆すでに楚の地も取り込んだのか。これはなんと楚の国の兵が多いことよ」と。項王は夜起き出して本陣で飲んだ。女官がいて、名前は虞（といった）。いつも寵愛されて一緒にいた。名馬もいて、名前は騅（といった）。（項王は）常にこれに乗った。そこで項王は悲しく歌い激しく心をたかぶらせ、自分で詩を作って言うには、

力は山を引き抜き、気力は天下を覆いつくす。
時勢は有利ではなく、騅も進まない。
騅が進まないのをどのようにしようか、どうにもできない。
虞よ、虞よ、お前をどうしようか、いや、どうにもできない。
歌うこと数回、女官もこの歌に合わせて歌う。項王は涙を幾筋か流した。側近は皆泣いて、（項王を）仰ぎ見ることができる者はいなかった。

三

古くからの友人が千里の彼方に旅立つ。
別れに際して、やはりぐずぐずしてしまう。
人が去って行ってもまた帰ってくることができる。
年が去ってゆくのを、どうして追いかけることができよう（いや、できない）。
歳に問う、「どこへ向かうのか」。
「遠く天の果てです。
ひとたび東へと流れる水を追いかけ（ても）、
海に向かって流れたら最後、帰ってくる時はない。」
東側の隣でやっと酒を醸し出したばかりで、
西側の小屋では子豚もまた太っている。
ひとまず今日を楽しんで、
この暮れゆく年の悲しみをいやそう。

第22講 確認問題　解答

〔解説〕

① ア「井の中の蛙大海を知らず」は、知識・見聞が狭いこと。イ「疑心暗鬼」は、疑いだすと、ありもしないことをあれこれ考えるようになり苦しむこと。ウ「呉越同舟」は、仲が悪いものが同じ場所にいること、または、仲の悪いものが助けあうこと。エ「抜山蓋世」は、気力が極めて充実していること。オ「四面楚歌」は、周りがすべて敵、孤立無援の状態であること。よって、正解はオ。

② 「可(べ)けんや」は反語の句法で、「〜できるか、いや、できない」(＝〜できようか)の意味。よって、正解はエ。

〔解答〕

① オ　② エ